

2012 年 2 月 6 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 作本 直行

カンボジア国 シハヌークビル港競争力強化調査プロジェクト
(開発調査型技術協力)
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2012 年 1 月 20 日 (金) 14:30 ~ 17:40
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1 階 113 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、石田委員、田中委員、二宮委員、松下委員
- ・議題：カンボジア国 シハヌークビル港競争力強化調査プロジェクト (開発調査型技術協力) に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) シハヌークビル港競争力強化調査プロジェクト スコーピング案 事前配布資料
 - 2) スコーピング案に対する助言対照表
 - 3) 添付資料 1：目次案
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010 年 4 月)

全体会合 (第 21 回委員会)

- ・日時：2012 年 2 月 6 日 (月) 15:00 ~ 18:00
- ・場所：JICA 本部 (会議室：2 階 229 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体・代替案

- 1 . 大メコン圏の地域協力の枠組みの中での港湾の役割という視点を考慮して、事業の必要性と規模の妥当性を説明すること。
- 2 . 港湾の機能強化に伴う陸上の輸送能力強化の必要性について検討が必要であるならば、港湾整備と道路整備を適切な段階で一体化させて考えること。
- 3 . シハヌークビル港の将来ビジョンの検討にあたって上位計画との関連、上位計画における位置づけについて明らかにすること。
- 4 . シハヌークビル港の将来ビジョンと競争力強化戦略(ソフト)、港湾整備基本戦略(ハード)に関して、その実現に向けた推進手法について明記すること。
- 5 . シハヌークビル港の将来ビジョン、競争力強化戦略、および港湾整備基本戦略の検討の前提として、シハヌークビル港の現在の物流量、海運動向、および将来 2020 年、2030 年の動向等の基礎データを提示すること。また、現在のシハヌークビル港の主な施設の諸元や配置を明記すること。
- 6 . 海上交通の安全航行に関してその現状を調査確認し、観光船と運輸船舶の増加がもたらす海上交通量の増加による事故と混乱を未然に防ぐ安全策を提案すること。
- 7 . アクセス道路の建設可能性があるというならば、現段階から背後の環境保全上重要な森林地区と Ream 国立公園を避ける路線計画を提言すること。
- 8 . 港湾施設整備概略計画案の検討に際し、提示されている整備案の位置付け、これらの案が提示されるに至った検討プロセスを明らかにすること。
- 9 . 事前配布資料に記載されている「開発候補地及び施設配置」の開発、施設はどのような開発(土地利用改変等)の内容およびどのような施設の立地等を指しているのか、その意味を明確にすること。

環境配慮

- 10 . 港周辺の海流の状況から、港湾整備によってコンボンサム湾全体へのさらなる汚染の広がりが懸念されるため、汚染の拡散状況について正確なデータを把握するとともに必要に応じて追加の調査を EIA の TOR に含めること。
- 11 . 保護区に対しては、風の向き、生物の移動範囲等を含めて調査する旨 EIA の TOR 案に含めること。
- 12 . 森林に棲むとされる絶滅危惧種の哺乳類と爬虫類には、移動性、夜行性の亀やコウモリが含まれる可能性があるため、道路建設等の工事にあたっては留意すること。
- 13 . 防波堤内の生活排水が未処理で海に排出されることによる大腸菌汚染による水質汚染や、港湾内の海水交換が遅いことによる油濁拡散が指摘されているため、港の環境改善計画の検討に際し、PAS (Sihanoukville Autonomous Port : シハヌークビル港湾公社)を通じて、関係機関に生活排水調査、改善策・油濁防止策の検討を提言すること。
- 14 . 港の工事に関わる海域に海洋性哺乳類(ジュゴン、イルカ、クジラなど)がいないか調査すること。

15. シハヌークビル港内の海水交換が悪いため、港内での漁業活動、縁辺で行われている養殖への影響を慎重に見積もること。
16. シハヌークビル港周辺海域における主要種を確認のうえインベントリーを作成するとともに、マングローブ、サンゴ礁の調査を行う旨 EIA の TOR 案に含めること。
17. 森林域と国立公園を生息域とする陸上動物の生息範囲を確認し、予定されるアクセス道路建設や車両の増加による影響を見積もる旨 EIA の TOR 案に含めること。

社会配慮

18. 新規港湾施設整備の開発エリア周辺の居住人口、生業の状況を把握すること。
19. 本事業による漁業および観光業への影響を検討すること。また、周辺の文化施設の有無も再確認すること。
20. 本事業による住民移転の発生可能性について調査検討すること。
21. 不法海上居住者の実態を明らかにし、彼らに与える影響を把握すること。
22. 岸壁工事、埋め立て工事で使用する陸上の一時的施設の影響を見積もること。

スコーピング案

23. スコーピング表 9.2.1 について、「4. 社会関係資本や地域の意思決定機関等の社会組織」「5. 既存の社会インフラや社会サービス」「7. 被害と便宜の偏在」「13. 地形・地質」「17. 海岸・海域」「21. 地球温暖化」「25. 廃棄物」を考慮項目とするよう検討すること。
24. 代替案の検討にあたっては、表 9.2.1 の項目に加えて、建設コスト、技術的可能性、目的との整合性等を考慮項目として明記すること。

ステークホルダー協議・情報公開

25. シハヌークビル港周辺には多様な背景をもつ居住者が存在していることに配慮し、現地ステークホルダー協議は、参加対象者や開催の回数、場所、方法等について慎重な計画・設計のもとに実施されるとともに、スコーピング対象項目について参加者に十分な情報と検討の時間が提供されるよう考慮すること。
26. シハヌークビル港内と近辺の環境汚染の現状を調査のうえ確認し、防波堤内の漁家、養殖業経営者を含むシハヌークビル港内の環境汚染の現状と汚染防止の方法、ならびに今後の水域利用のあり方について、住民を含む関係者と議論する場を設けることを提案すること。

以 上